

マイアミビーチ市市制 100 周年（同市誕生への日本人の貢献）

2014 年 11 月 26 日
総領事 長嶋伸治

マイアミビーチ市は 2015 年 3 月 26 日に市制 100 周年を迎え、年間を通じて数々の記念行事を計画しています。

同市は約 100 年前にアメリカ人の実業家カール・フッシャーがマイアミ沖の浅瀬を埋め立てて造成したことに始まったもので、その造成した砂地に土を盛った上で多くの植栽を施してマイアミビーチ市の原型を作り上げていった経緯があります。その植栽を担当したのが実は田代重三と須藤幸太郎という二人の日本人で、このことは 1961 年にロサンゼルスの新日米新聞社が刊行した「米国日系人百年史」に記載があります。

最近、田代氏のご子息である栄二氏に当時の様子などを伺う機会を得ました。田代氏はマイアミビーチ市生まれで高齢でしたが夫人ともどもお元気でした。田代ご夫妻は多数の写真を取り出し当方にその内容を説明してくださいました。そこには 100 年近く前、マイアミビーチ市造成当時のマングローブのジャングルやノコギリ椰子を掘り起こして整地する光景、また自家用車の前で記念写真に収まる戦前の同氏ご一家や家業の造園業のための苗木畑他多数が写っておりました。そこでちょうど来年のマイアミビーチ市 100 周年記念行事のことをお伝えし、写真を複製して同市に寄贈してはどうか打診したところ快諾をいただきました。



マイアミビーチ北部のインディアン・クリーク（1918 年）



（右から）田代ご夫妻、マラコフ副市長、レヴィーン市長、小職

去る 10 月 21 日に田代ご夫妻とともにレヴィーン・マイアミビーチ市長を訪ねて数枚の複製写真をご夫妻から市長に寄贈いたしました。

市長と同席の副市長共々この貴重な写真を驚きをもって受け取り、市制 100 周年行事の中で是非活用させていただきたいとして、本件寄贈に多大の謝意を表明しました。

マイアミビーチ市はアメリカを代表する観光地であり、余りにも有名ではありますが、そこが造成された土地であり、かつその過程で行われた椰子の並木や数多くの植栽は日本人の手により施されたことはほとんど知られておりません。また当地の日本人は第二次大戦中も収容されることなく一定の制限の下で自由な生活を認められていたとのことでした。

この寄贈によりマイアミビーチ市の誕生初期に日本人が大きな貢献をした事績が改めて関係者間で共有され、さらにこのことが当地で広く伝わることで日米間の絆が深まる縁になれば嬉しく思います。寄贈に快くご協力いただいた田代様ご夫妻に改めて感謝申し上げます。

(了)